

遺伝子医学 MOOK 15
最新 RNA と疾患研究
今、注目のリボソームから
疾患・創薬応用研究まで
RNA マシナリーに迫る

中村義一 編

メディカルドゥ/B5・220頁・5,400円

2006年に本シリーズ4号で「RNAと創薬」が刊行され、3年を経た今、RNA研究は爆発的な進展を遂げている。「リボソームの構造と機能の研究」に関する業績により、Ramakrishnan, Steitz, Yonathの3名のX

線結晶構造学者に2009年のノーベル化学賞が授与されたことは、記憶に新しいところである。

本書は、前著同様「RNA研究は、RNAをキーマテリアルとして、基礎と応用、あるいはアカデミアとインダストリーなどの垣根を越えた連携が重要」との編者の強い思いが体现された書籍である。第1章ではRNA研究の基礎、第2章ではRNAと疾患とのかかわり、第3章ではRNA創薬や診断、さらに第4章では今後の可能性についてまで展開され、実に幅広く、かつ奥深い内容が、多彩な執筆陣によりコンパクトにまとめられている。

特に、第2章及び第3章で疾患、診断、治療に関して多くの論述のなされている点が、本書において象徴的であり、読者は、RNA疾患研究やRNA創薬が、いよいよ開花のときを迎えたことを知ることができよう。

本書はRNA研究に従事している、あるいはこれから研究を始める研究者は無論のこと、本書1冊でRNA研究の‘今’を把握できることから、広く一般読者にもお薦めしたい良著といえる。

池田幸弘 Yukihiko IKEDA

※以上の本は、日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます。